

携帯電話機器

離隔距離 弾力運用を 加納教授、新指針を解説

埼玉医大保健医療学部
加納隆教授は、札幌市
務省が八月公表した「医
療機関における携帯電話
距離を一に設定した経
緯等を紹介した。

平成九年に示された前
回指針は、医療機器への
影響が大きかった第2世
代携帯電話「ビエラ」の
ため、厳しく設定して
いたものの、二十四年に
可能性が軽減されたこと
を報告した。

私物の携帯電話を使え
ば、院内の電磁環境調査
は簡単にできるとし、臨
床工学士の活躍に期待
を寄せた。

国際連携教育推進局（IC
OPE）が今春開設され、
米スタンフォード大研究
師免許を持った外国人医
国内病院ではまだ少ない
が、研究部門には海外医
生労働者の特例を活用し
た「国際外来」も構築。
試験結果や医療機器の取
り扱い説明書を基に安全
性を確認できれば「もう
1」の認証取得も視野に
入れている。

北米周辺は外国人が多
生労働者の特例を活用し
た「国際外来」も構築。
試験結果や医療機器の取
り扱い説明書を基に安全
性を確認できれば「もう
1」の認証取得も視野に
入れている。

医療業務用に出力電
力の低い医療用PISや
フレムトセル（小型電波
基地局）を活用すること
で、「院内でタブレット
などのデバイス活用が進
み、医療ICTの発展に
つながる」と主張。携帯
電話は受信電波が弱いと
電波出力が大きくなり、
医療機器への影響が大き
くなるため、埼玉医科大

道北・道東における
循環呼吸系の医師確保
へ向けた取り組みを展
開する寄付講座で、主
に学生向け活動を担
担

「学生たちには、学
域や行政と協働して、
1夕や考えを学会で発
表してもらい、早期が
ら地域医療へイン
や探求心養成で、成果
を上げつつある。

医療再生は地域再生に
つながる」と強調する。

医療新聞



中医協DPC退院患者調査(25年度)

3年	平成24年	平成25年	平成23年	平成24年	平成25年
(月)	(6か月)	(6か月)	(12か月)	(12か月)	(12か月)
5.33	15.01	14.71	14.57	14.29	13.99
3.61	13.39	13.19	13.03	12.86	12.66
4.22	13.90	13.76	13.62	13.37	13.21
5.15	14.87	14.70	14.54	14.29	14.09
	14.58	14.41		15.29	14.61

他院より紹介有りの率・患者数

施設類型	平成21年 度 (6か月)	平成22年 度 (6か月)
DPC対象病院I群 (1施設当たり患者 数)	43.5%	50.8%
DPC対象病院II群 (1施設当たり患者 数)	495.7	605.9
DPC対象病院III群 (1施設当たり患者 数)	46.8%	49.3%
DPC対象病院III群 (1施設当たり患者 数)	464.8	504.7
DPC対象病院III群 (1施設当たり患者 数)	39.5%	41.1%
DPC対象病院III群 (1施設当たり患者 数)	158.9	169.6